

令和3年12月23日

令和3年12月 記者懇談会 冒頭挨拶

皆さんこんにちは。

本日も、ご多忙中にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日は参加者が様々な制服などを着用しております。これは、後ほどの業務説明にて海上保安庁の制服を紹介することにちなんだものです。

さて、本日の本部からの発表事項は、4点を紹介させていただきます。

- 1点目が、令和3年『8管トピックスTOP10』の決定について
 - 2点目が、緊急通報ダイヤルの118番について
 - 3点目が、令和3年における海難発生状況について
- となります。

1点目の

令和3年『8管トピックスTOP10』の決定についてですが、

投票は、職員に加え、一般の方にもお願いしていましたが、69名の方に参加して頂くとともに、当管区以外の在住者の方もおられ、とてもうれしく感じた次第です。

改めて、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、投票結果は、お手元にある資料の通りですが、この中で、一般結果の3位に選出された「不審船対処に係る海上自衛隊との共同対処訓練を実施」や6位の「日韓合同捜索救助訓練を実施」については、職員結果では選出されていません。

その理由を断定することは困難ですが、想像するに、これら訓練は

新しい要素を取り入れつつ、繰り返し実施していることから、事件事故と違って、職員にとって印象は少ないのではないかと、一方、一般の方にとっては、北朝鮮、中国、韓国をめぐる動向への関心の高さが表れているのではないかと考える次第です。

いずれにしましても、引き続き、職員が一丸となって、訓練、事件事故への対応をしっかりと行い、地域の方々に安全安心を提供していく所存です。

2点目の

緊急通報ダイヤルの118番についてですが、

警察の110番、消防救急の119番と同様に、海上保安庁では、緊急通報用として118番を、平成23年から運用しています。

この118番にちなんで、1月18日を118番の日と称して、周知活動を行うものであります。

118番通報は、本部の運用司令センターに直結しており、通報を受けることで素早い救助活動を行うことができます。

しかし、資料にあるとおり、通報のほとんどが無言、間違い、即断といったものです。

電話回線に限りがある以上、仮に無言、間違い、即断といった通報で回線が占められた場合、真に救助を必要とする118番通報を受けられなくなります。

このため、絶対に無言や即断といった電話を止めて頂くよう、改めてお願いするものです。

一方で、間違い電話の中には、119番と118番を間違える例も散見されます。119番と118番は最後の数字のボタンの位置が隣同士であるため、救急車を呼ぼうとして118番を押してしまったということもあり、この場合には、運用司令センターの職員は、通報内容を聞き取り、最寄りの消防署に連絡をするといった対応もしております。

いずれの場合にあっても、運用司令センターの職員は、四六時中、緊張しながらも、118番通報のベルが鳴った瞬間から、迅速かつ確実

な対応をしていることを、この場を借りてご紹介させていただきます。

3点目の

令和3年における海難発生状況についてですが、第八管区海上保安本部管内では、船舶海難及び人身事故は昨年とほぼ同数でありました。

事故の傾向としては、船舶海難の7割をプレジャーボートが占め、また、ミニボートによる海難が増加したといった特徴がありました。

また、人身海難にあっては、約半数がマリナーレジャーに伴う海浜事故であり、遊泳中の海難は昨年に比べ大きく減少したという特徴がありました。

当管区にあっては、今回の事故の傾向をしっかりと分析し、安全対策に反映していく所存です。

さて、本年も残すところ、10日あまりとなりました。

4月早々には、就任会見を行うことなく、皆様には海上自衛隊舞鶴地方隊との不審船共同対処訓練での会見を行わせて頂き、改めて無礼をお詫びいたしますとともに、毎月の懇談会にご参加いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

来年にあっても、より良いテーマを皆様に提供すべく、努力する所存でありますところ、引き続き、よろしく願いいたします。

私からは以上となります。